御神幸祭と歴史文化

市長　明智忠直

晩秋から初冬へと移るこの時期は、人々の心にやすらぎ、あるいはふるさとへの郷愁、そんな感情を抱かせてくれる季節であります。昔からこの時期、市内では数々の神社において神幸祭が行われてきました。私の住んでいる地区の氏神である浦賀神社でも、11月７日に神幸祭が執り行われました。辰年だけに行われ、今回15回目だそうで、11月７日に今の場所に鎮座されたことから、この日の開催となっています。

最初の神幸祭は、天保の時代に始まったと記録されております。どういう流れでこの祭りが始まったのか定かではありませんが「天保水滸伝」にもあるようにこの時代は、秩序が乱れ、飢饉（ききん）も起こる荒れた世の中で、地域の絆や団結のために、氏神を崇敬して守ってもらわなくてはとの思いがあったのだと思います。また松沢の熊野神社の神幸祭で、近くの三川浜へ降りる儀式が余りにも大きな祭りでにぎわったことから、自分たちもという有力者の思いもあったのではないかと私なりに想像しているところです。もちろん地域の平安や五穀豊穣（ごこくほうじょう）、家内安全、商売繁盛などを守っていただいたお礼の意味もあると思います。

私も小学校３年生のときから、この祭りに参加してきました。当時は未明から深夜まで２日間行われ、８か所に番所を造り、殿様や使者のやりとり、芸の披露などが行われました。そして市内の大手企業から招待を受け、その芸を披露して歩いたこともありました。また２月には、８地区をみこしで練り歩く神幸巡りという行事もありました。村中が総出で、地区出身の親戚や縁のある人たち全てが集まっての祭りであり、大変な盛り上がりを見せたものでした。今回は、お浜降りの行列を粛々と海岸へ進めていく神幸祭でしたが、その時代を反映しているこの祭りを、私どもはしっかりと次世代に引き継いでいく責任があると思いました。

旭市にある数々の神社の神幸祭。歴史を語り継ぐためにも、ぜひその文化を保存し、後世に伝えていってほしいと感じたところでありました。